

カキ陸上養殖 公庫出資

久米島 1.9億円 海外展開目指す



出資会見を行った（左から）
沖縄振興開発金融公庫新事業
育成出資室の砂川室長、
ジーオー・ファームの驚足
社長、ゼネラル・オイスタ
ーの吉田CEO＝同公庫

沖縄振興開発金融公庫（川
上好久理事長）は17日、久米
島町で世界初のカキの完全陸
上養殖に取り組む「ジーオー

・ファーム」（驚足恭子社長）
に1億9千万円を出資したと
発表した。同社は11月中旬以
降に着工する養殖施設の建設
などに充て、2018年3月
までにカキを試験出荷。20年
には年間300万個を出荷
し、7億円以上の売り上げが
目標。沖縄を拠点にアジアな
ど海外展開を目指す。
同社はゼネラル・オイスタ
ー（旧社名・ヒューマンウェ
ブ、吉田瑠璃代表取締役CEO）
のグループ会社。久米島
沖で取水される海洋深層水を使
い、ウイルスが含まれない
「あたらないカキ」の生産・
出荷を目指している。

海洋深層水は洗浄性が高
く、温度も一定で管理しやす
い。栄養分も豊富で餌となる
プランクトンの増殖にも適し
ている。温度や餌の与え方を
工夫すれば、海上養殖の出荷
期間（2年）を1年以下に短
縮できるという。

来月着工するのは受精施設
「ハッチェリー」、3ミ³3
ミ³の幼貝に育てる「ナースリ
ー」。その後、出荷可能な3
ミ³以上の成貝に育てる「グロ
ーアウト」を建設。アジアを
中心とする海外出荷も検討
し、段階的に規模を拡充する。
出資は9月29日付。自己増
資分を含め、資本は4億円（資

本金2億500万円、資本準
備金1億9500万円）とな
った。同公庫新事業育成出資
室の砂川則夫室長、驚足社長、
吉田CEOが17日、記者会見。
吉田CEOは「海洋深層水や
気象条件など久米島の恵まれ
た環境を生かし、世界で一番
安全なカキを作りたい」と抱
負を述べた。

ジーオー・ファーム 生食も安全

世界初 カキ陸上養殖

全国でオイスター（カキ）バーを経営するゼネラル・オイスター（東京、吉田秀則代表取締役CEO）の子会社ジーオー・ファーム（久米島町、驚足恭子社長）が久米島町の海洋深層水を使って、カキの陸上養殖を始める。卵の受精から成貝に生育するまで一貫して陸上で行うのは世界初。拠点となる施設を11月にも建設予定で、早ければ2017年度内に久米島産カキとして全国に出荷する。雑菌がない海洋深層水を用いることで、ウィルスフリーの食あたりしない「安心、安全なカキ」として世界に売り込む。

久米島に海洋深層水施設

貝を成貝まで育成する施設（グローアウト）の三つの施設で一体的に行う。施設は当面は1300平方メートル規模で、増産体制が整い次第、拡張させ、将来的には3700平方メートル規模にする。

海中中の植物プランクトンを餌にするカキは、1時間に20リットルの海水を体内で循環させるため、海で養殖した場合、海水に含まれる菌やウィルスが体内に蓄積し、生で食べた場合に食あたりすることがある。久米島町は海洋深層水の取水量が全国一で、カキの生育に必要な大量の海水を確保できるほか、亜熱帯気候により、プランクトンの光合成に適した日照量があるなどの利点がある。

海洋深層水は表層水に比べ温度調節が容易で、通常2年程度かかる生育期間を大幅に短縮することができる。ジーオー・ファームは「1年以内」（吉田CEO）の生育期間を目標に据えており、20年には年300万個の出荷を目指す。

ジーオー・ファームは9月末、沖縄振興開発金融公庫と親会社から合わせて3億9千万円の出資を受けた。



ジーオー・ファームの研究施設で生育された養殖カキ。久米島町手根